

第25回総合学術研究集会

平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために —市民として科学者として今、私たちにできること—

2024年11月23日(土)～12月8日(日)

オンライン開催

第25回総合学術研究集会開催にあたって

日本科学者会議総合学術研究集会は、1976年以来隔年で開催され、今回で25回を迎えることになりました。今回は東海地区4支部(愛知、岐阜、静岡、三重)の合同により、オンラインで開催されます。また今回のメインテーマを、

平和で豊かな地球を子や孫に伝えるために—市民として科学者として今、私たちにできること—とすることを提案します。このメインテーマおよび企画内容への積極的なご提案を歓迎します。

2022年に第24回総合学術研究集会が開催されて以降、長引くウクライナ戦争やイスラエルによるパレスチナ・ガザ地区におけるジェノサイドなど、国際紛争を戦力・武力を用いて解決しようとする動きは、まったく止む気配を見せません。それどころか日本国内においても、2022年12月の「安保3文書」の決定に象徴されるように、軍備拡大が推進され、とくに辺野古新基地建設などの軍事力の南西諸島での拡大が、政府によって強行されています。

さらに「地球沸騰化の時代が到来した」といわれる気候危機や原発回帰の動きがあり、国民生活をめぐっても、政府・大企業が短期的な利潤第一主義に支配されるなかで、労働者は低賃金の固定化や不安定雇用にあえいでいます。また、毎年のように発生する水害等に加えて、能登半島地震など相次ぐ激甚な自然災害への対策も緊急課題となっています。

ところが、これらの課題に対して指針を示すべき日本のアカデミズムは、この30年、競争至上主義と国策追従に追いこまれて、政府による「不当な支配」を受け続け、研究者が疲弊を極めるなかで、日本の研究力は先進国中、最低水準にまで落ち込むに至っています。

いったいつまで、これらの愚行を続けるのか。私たちは、日本の科学の進歩と平和・独立・民主主義・人びとの生活向上のために努力してきた日本科学者会議の伝統を受け継ぎ、科学の発展を妨害するものとたたかい、科学を正しく発展させ、科学者の責任を果たしたいと思います。

地球と人類の前途が危険にさらされる一方で、今、科学者の社会的役割が注目されています。私たちは、先輩たちが担ってきたとりくみの成果に学びつつ、みずからの研究成果を世の中に発信し、市民とともにその成果を検証していくことに、さらに挑戦していこうではありませんか。

第25回総合学術研究集会を、市民との共同・連帯を探究する場として成功させましょう。

第25回総合学術研究集会実行委員会

分科会の設置を募集します

分科会を募集します。会員ならだれでも分科会の設置申請ができます。ふるってご応募ください。分科会のテーマ設定の便宜のために、前回の24総学の分科会を示します。これらをひとつの参考としつつ、多様なテーマの分科会をぜひご提案ください。

A 戦争のない平和な時代を拓く

- A 1 国際社会における平和と人権～ウクライナ侵攻が突きつける国際問題研究の新たな課題～
- A 2 戦争と平和をめぐる科学者の社会的責任、市民との共同
- A 3 「ウクライナ侵略戦争」が起きて一改憲阻止の闘い方と戦争廃絶の方策を語ろう
- A 4 ロシアのウクライナ軍事侵攻—2022年

B 地球環境の危機的状況の克服、原発問題の解決、防災・減災、災害復興

- B 1 気候危機に立ち向かう—自然エネルギーと省エネの社会に向けて
- B 2 再生可能エネルギーと健康・環境影響
- B 3 脱原発への課題と展望
- B 5 避難の権利—原発訴訟 2022年
- B 6 公害・環境問題の現在
- B 7 大阪での公害・環境問題に取り組んできて
- B 8 リニア中央新幹線問題の検討と運動・経験交流 (part6)
- B 9 災害分科会

C 人間らしい労働、暮らしを守る経済、地域社会の再生

- C 1 新型コロナウイルス感染症をめぐる現状と課題
- C 2 日本の食と農を考える
- C 3 オセアニア海洋文化とモンゴル遊牧文化からSDGsを考える
- C 4 労働者の権利擁護と全国一律の最低賃金の大幅引上げ

D 科学・技術の現状批判と課題

- D 1 自然科学の進展を俯瞰する
- D 2 科学技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 (part14)
- D 3 科学技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る(part15)
- D 4 加速する科学・技術の進展とその社会実装について考える

E 学術研究体制の危機と大学・研究機関、研究者の権利・社会的責任

- E 1 経済安保法と国際卓越研究大学法は、学問の自由と大学の自治に何をもたらすのか
- E 2 いま改めて研究者の権利・地位と倫理を考える
- E 3 持続可能な高等教育を考える

F 個人の尊厳、ジェンダー平等、多様性の尊重

- F 1 社会的ひきこもり・不登校
- F 2 社会的ひきこもり・不登校を語る(当事者、経験者歓迎)
- F 3 学校における学びの保障を考える
- F 4 現在の情勢をジェンダー視点から考える

G 市民社会、その他

- G 1 アメリカの現状と今後を考える

- G 3 市民と科学者を結ぶ雑誌『日本の科学者』の歴史的役割と展望
- G 4 高校生と一緒に考える大阪の未来
- G 5 モンゴルにおける言葉と文化の21世紀
- G 6 転換期における抵抗運動の論理

＜分科会設置の申込要領＞

- 分科会設置の申込み締め切りは、2024年5月10日（金）とします。
- 分科会設置申込書は、JSA ウェブサイト (<http://www.jsa.gr.jp>) 25 総学のページにあります。申込書に氏名、所属、連絡先、分科会名、設置の趣旨（200 字程度）を明記し、電子メール（25so-gaku@jsa.gr.jp）に添付して送信してください。

25 総学 日程概要（案）（企画の都合で一部変更となる場合もあります）

月/日(曜日)	9:30～ 12:00	13:00～ 15:30	15:45～ 18:15	18:30～ 20:00
11/23(土)	全体会1	全体会2	全体会3	予備
11/24(日)	分科会 1・2	分科会 3・4	分科会 5・6	予備
11/30(土)	分科会 7・8	分科会 9・10	分科会 11・12	予備
12/1(日)	分科会 13・14	分科会 15・16	分科会 17・18	予備
12/7(土)	分科会 19・20	分科会 21・22	分科会 23・24	予備
12/8(日)	分科会 25・26	分科会 27・28	全体会4	予備

注：全体会 1～4、分科会 1～分科会 28 は仮設定です。全体会や分科会の内容が決まりましたら、講演者やコーディネーターの希望に応じて日程調整します。
全体会 1 は開会式・特別講演 1、全体会 2・3 は特別講演 2・3、全体会 4 は閉会式の予定です。

第 25 回総合学術研究集会実行委員会（3月1日現在）

◎松田正久（愛知支部）、○畑 明郎（研究企画部長・滋賀支部）、☆前田定孝（三重支部）、水谷洋一（静岡支部）、石原剛志（静岡支部）、石井 潔（静岡支部）、庄 建治朗（愛知支部）、中塚 武（愛知支部）、藤枝律子（三重支部）、北村香織（三重支部）、武藤清吾（岐阜支部）、椎名貴彦（岐阜支部）
（◎：実行委員長、○：副実行委員長、☆：事務局長）

日本科学者会議 第 25 回総合学術研究集会実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 HYビル（茶州ビル）9階

Tel:03-3812-1472 Fax:03-3813-2363 e-mail:25so-gaku@jsa.gr.jp <http://www.jsa.gr.jp>

第25回総合学術研究集会 分科会設置申込書

分科会設置希望者は、代表者名、所属支部 (or 所属先)、連絡先 (メールアドレス)、希望する分科会名、設置趣旨 (200 字程度) を記して、**2024年5月10日 (金)** までに、第25回総合学術研究集会実行委員会までお申し込みください。なお、申し込みは、電子メール (25so-gaku@jsa.gr.jp) に申込書を添付して送信してください。

2024年____月____日 (受付No.____)

設置責任者名 (所属支部 or 所属先)	
上記が2人以上のとき 代表者名 (ふりがな)	
連絡先 (メールアドレス)	
希望分科会名	
設置趣旨 (200 字程度)	

【申込先・問合せ先】

日本科学者会議 第25回総合学術研究集会実行委員会
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 HYビル(茶州ビル)9階
Tel/Fax : 03-3812-1472 e-mail : 25so-gaku@jsa.gr.jp